

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年12月12日 NO.69

オー君 「ヒイラギの花って、寒（さむ）くてもがんばって咲（さ）いてるね。」

モンタ博士「まだまだ他（ほか）にも咲いている花があるけど知ってるかな。あちこちのお庭（にわ）に咲いているよ。白や赤、ピンクもあるよ。いつも緑色の葉っぱを持っている常緑樹（じょうりょくじゅ）の木だよ。」

花ちゃん 「常緑樹というのは、葉っぱがあついから、…ツバキかしら？」

モンタ博士「おいしいね。とっても近いよ。ヒントはね、かきね。それから、たきび…だよ。」

オー君 「かきね・・・？・・・たきび？・・・。」

花ちゃん 「分かった。サザンカだわ。」

## ♪かきねのかきねのまがりかど たきびだたきびだ 落ち葉たき♪

っていう歌、歌ったことあるわ。」

モンタ博士「その通り。サザンカだよ。サザンカはツバキ科だ。今あちこちのかきねにいっぱいさいているよ。」

花ちゃん 「そういえば、このお花も寒さの中でがんばって咲くんですね。とってもがんばりやさんの木という感じですね。」

モンタ博士「でもね、本当（ほんとう）は寒いより温かい方が好きな植物なんだよ。サザンカはよくかきねや切り花に使うけどね、自然（しぜん）に生えているのは沖縄（おきなわ）や九州・四国など温かい所なんだよ。」

オー君 「そうなんだ。自然に山の中にあるのか。それじゃ、かきねみたいじゃないんだね。もっと大きい木なのかな。」

モンタ博士「それじゃ、今からクイズ。自然に生えているサザンカは、どのくらいの木でしょうか。3m、5m、10mのうち、どれでしょうか。」

花ちゃん 「かきねに使うのは1～2mくらいでしょう。だから、5mくらいあるの。」

モンタ博士「ブー。正解は10mです。モンタ博士が九州の屋久島（やくしま）というところで見えたサザンカは、木の太さが30cmくらいあって、高さは10mを

こしていたよ。」

オー君 「すげえな。そんなサザンカがあるのか。おいら見たいな。」

モンタ博士 「ところでさ、サザンカの花は知ってるよね。」

花ちゃん 「もちろんですよ。いつも見ているもん。」

モンタ博士 「いつも『見ている』ということと、

よく『観察』するとはちがうんだ。」

オー君 「それはどういうことですか。」

モンタ博士 「花はふつうは5枚だけど、

園芸用（えんげいよう）

に八重（やえ）のもの

もあるんだ。それから、

花に指をいれてなめた

ことはあるかな。」

オー君 「なめるって、どこを？」

花ちゃん 「なめてもだいじょうぶ？」

オー君 「五感を使う観察なら、おいらにまかせとけだ。ムニャムニャ。あ！あまい！」

モンタ博士 「そうだろう。あまいだろう。5枚の花びらのまん中におしべやめしべがある

だろう。その下あたりに指をつっこんでごらん。」

花ちゃん 「私もなめてみよう。あっ！本当にあまいわ。かんげき！！！」

モンタ博士 「二人がそんなに喜（よろこ）ぶんだもの。他の生き物だって喜ばないかな。」

オー君 「あっ！分かった。冬になって食料のなくなった鳥たちにはごちそうなんだ。」

モンタ博士 「ピンポン。その通り。しばらくあそこにさいているサザンカを遠くから観

察しよう。そのうち、いろいろな鳥たちがおなかをへらしてやってくるよ。」

花ちゃん 「あ！メジロがみつをすいにきているわ。かんげき！！！」

### サザンカにつぶやき

賑やかに彩っていた色づいた葉もいつしか散り果て、寂しくなった庭先に、他の花にずっと遅れてようやく私は咲き出すのよ。寒さをつつむ薄日のかげでも色鮮やかに冴えて咲く私ってとっても美しいでしょう。美しく綺麗なだけではないのよ、初冬の夜明け方に氷霜をうっすらとかぶりつつ開く私には、清らかさの中にも、寒さに必死に耐えている厳しさも凜として持っているのよ。

ところで、ツバキ油というのをご存知。ツバキは私の従姉妹みたいなものだけど、油で有名でしょう。ところが、ツバキの油よりも私のサザンカ油というのは、もっと高級なのよ。不乾性でべとつかず、酸化物も生じないの。刀剣や調理用刃物のさび止めなどとして使われているのよ。ご存知でしたかしら？

